

(別添4)

【白山市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

ICT機器を効果的に用いた授業により、質の高い個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による、主体的・対話的で深い学びを実現し、全児童・生徒に資質・能力を身に付けることを目指す。

また、課題解決において、児童生徒が学習の方法やツールなどを自分で選択し、他者と協働しながら、学習者主体の学びを実現する。そして、自ら学びを進める上で必要な情報活用能力や自己調整力などについても、合わせて向上を図っていく。

2. GIGA第1期の総括

本市では、各校において必要な1人1台端末（Windows）を整備し、ネットワークや周辺機器も含めた環境整備を計画的に進めてきた。

また、ICT環境の整備に加えて、教員の活用指導力の向上に向けた取組を行ってきた。また、各校の情報担当者からなる情報教育担当者会を定期的に行い、発達段階に応じて身に付ける活用スキルを示した「白山市情報活用スキルモデル」を作成したり、授業における端末活用の好事例を横展開したりしながら、市内全体の活用を促してきた。また、校外／校内研修の充実を図り、教師の活用指導力の向上に努めてきた。その結果、当初は端末の活用方法に戸惑いを覚える教師・児童生徒も多かったが、授業での活用は質・量とも向上しており、児童生徒の活用スキルも発達段階に応じた定着が見られている。

一方で、教師が児童生徒に1人1台端末の使い方や場面を指定して『使わせる』ことが多いことや、ICTのよさを生かしておらず効果的ではない活用に終始する授業も少なからず見られている。活用自体は広がってきた中で、「授業のどの場面でどのように活用すれば、児童生徒にねらった資質・能力が身に付いたか」という検証が必要な状況である。また、児童生徒とも1人1台端末を使うよさや効果を共有し、よりよく選択して活用する力をつけていくことが重要である。

なお、学校間・教師間の格差が大きいのも実態である。各校の「GIGA校内研修推進リーダー」が中心となって、校内研修を充実させることや効果的な活用を学び合って実践すること、教育委員会が各校の情報担当者とこれまで以上に連携して効果的な活用のあり方を研究していくことが必要と考えている。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

石川県・全国の状況と比べて相対的に低い端末活用状況や学校間・教師間差の改善に向けて、「リーディングDX」の指定校の取組や先進校の取組事例を参考にすることや児童生徒の学びの姿で効果を実感すること、本市で採用しているICTサポーターとより連携を密にして各校の授業づくりを支えることなどを大切にする。その中で、積極的な活用に向けた風土・土台を確かなものにしていく。また、各校の「GIGA校内研修推進リーダー」を対象にした研修で、具体的な端末の活用方法を横展開したり、授業支援ソフトやAIドリルなどの最新の使い方などを学んだりすることで、よさを実感することを大切にする。そして、GIGA校内研修において、各校で実践が進むように還元を促していく。

なお、石川県の「学力向上プログラム事業 令和の日本型学校教育の具現化に向けた実証研究」における指定校の取組について、教育委員会として成果を発信・共有することで、市内各校の積極的活用が進むよう促していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が、学習の方法やツールなどを自分で選択し、他者と協働して、自己調整しながら学習を進める姿や、教師が学びの伴走者として全ての児童生徒をよく見取り支援する姿などについて、各校でより具体的に共有できるように、校長・教頭会議・各校への訪問・研究主任などが参加する主任等研修において指導・助言していくとともに、前述の指定校の取組について積極的に発信する。

また、1人1台端末の効果的な活用について、以下のように示しつつ、児童生徒がねらいや場面に応じた端末を使うことができるよう、必要な指導・支援を促す。

- ・教科の特質に応じた活用
- ・授業導入や深める場における画像や動画の活用
- ・考えを広げたり深めたりする場面で、全児童生徒の考えを共有する
- ・探究や調べ学習の際に一人一人の課題に沿って個別最適に学ぶ
- ・授業の終末で学んだことや学び方を振り返る

(3) 全ての児童生徒の学びを保障するために

本市では、現状においても1人1台端末を活用し、学校へ登校することが難しかったり、登校しても別室で学んだりする児童生徒に対し、学びの場を保障しているが、児童生徒のニーズの多様化が進み、発達障害のある児童生徒や外国籍の児童生徒も増加傾向にあるため、学びの保障は全ての学校で適切に進められなければならない。

今後、児童生徒の学びをより充実させるために、ICTを利用したオンライン授業の活用が考えられる。1人1台端末に教材を送る・授業のライブ配信を行う・個別に学習支援を行うなど、児童生徒や保護者のニーズ、状況などに応じて、適切に活用していくことが求められる。それだけでなく、児童生徒個々の課題や習熟度に応じた問題をタイムリーに進められるようAIドリルを活用することや、障害のある児童生徒の特性に応じて読み上げ機能や文字起こし機能などを活用することで、切れ目のない学びを

保障していく。また、希望する児童生徒に対する教育相談においても、この１人１台端末を活用することで今後より充実させることができる。

このようなICT活用の前提には、日々大きく変化するICT機器やアプリの様々な機能に慣れることが必須であり、校内での研修の実施や日常的に授業で児童生徒が端末を活用することに向けた支援を継続することが重要である。これらの取組を推進していくために、本市として児童生徒の１人１台端末の環境を更に充実させていきたいと考える。